

### 第213回関東医学哲学・倫理学会

**患者への日常的、個別的、文書による  
診療情報提供**  
—患者と医師の双方における負担と利益、  
患者の自己決定への有用性を考える—

岐阜かかりつけ医グループ：荒川迪生\*1 荒川淳子\*1 吉田麗己\*2 遠渡豊寛\*3  
(社)岐阜市薬剤師会：吉田達彦\*4

\*1荒川医院 \*2吉田内科 \*3遠渡内科  
\*4(社)岐阜市薬剤師会 会営 ぎふ西調剤薬局

第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2 1

### 診療情報の充実・体系化と共有・伝達：現状と目標

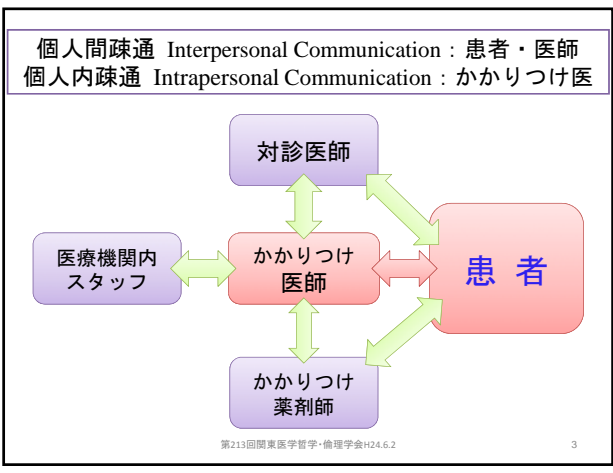
現状

➔

目標

診療 内容	①	検討不足	充実化(深化・修正・改善・補強)
	②	散乱・断片	体系化(集約・要約)
診療 記録	③	非開示占有	開示・共有化

第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2 2



### 背 景

電子機器による診療記録の保存能力向上は飛躍的であるが、診療録自体は依然として粗雑で断片的で、整理が遅滞している。

診療情報の基本のひとつは、初診時からの診療を概括し、実用的で適切に要件を満たした**診療情報の要約(サマリー)**作成である。  
これはかかりつけ医自身の個人内の診療の質向上を図る**垂直的分析**である。

もうひとつは、かかりつけ医と患者・対診医・薬剤師・医療スタッフ間で、診療情報のサマリーを共有することである。  
これは関係者個人間の診療コミュニケーションを図る**水平的分析**である。とりわけ、患者中心の診療情報共有が、患者の自己決定に貢献すると考える。

第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2 4

### 目 的

- ①「外来診療の要約」様式を標準化し、年1回更新する「**年刊サマリー**」を医師の通常業務とすること、
- ②「**年刊サマリー**」を患者に提供し、併せて**健康管理手帳**に診察所見、各種検査所見を抜粋網羅した**診療内容の開示を業務**とすること、
- ③さらに①、②両者の**実用性と有用性を分析**すること、である。

第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2 5

### 方 法

外来患者を対象に、初診時からの全経過の主要部分を抜粋し、Microsoft Excel 2010ワークシートを用い、1年に1回要約(以下、年刊サマリー)した。年刊サマリーの様式は試行錯誤し、今回は2011年11月から作成を開始した。

患者には、健康管理手帳を配布し、年刊サマリー、受診時の身体所見、血液検査結果等を記載、貼付した。

アンケート調査により、年刊サマリーと健康管理手帳の活用実態を評価した  
(2012年2月28日～3月6日間の“連続”定期受診患者114名)。

第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2 6

### 対診医の先生方へ

本管理手帳は、当院をかかりつけ医として診療を受けている方々に発行している、当院の診療記録の一部でございます。緊急重症の場合、当院での診療を受け難い場合（出張先、旅行先、当院の診療時間外・夜間・休日）に備えて、患者の皆様と診療情報を共有しています。先生方のご対診の折に、患者の皆様から直接聞き取る懇話の他に、ご診療の一助となれば真に幸いでございます。年刊サマリーには当院での診療開始からの診療情報の重要条項を抜粋していますが、情報は記載時点（ID行の最後の欄に示します）のものでございます。

荒川医院 副院長 荒川迪生  
 FAX:0584-68-1010、電話:0584-69-2383  
 E-mail:arakawa@mxn.mesh.ne.jp

1131 CO種、大背、M07種	T12.224	H23.925	1135 CO種、M07種	真川医師	T12.224	H23.925
#1 脳脊髄心疾患	557.21		#1 脳脊髄心疾患	557.21		
#2 心臓病	557.21		#2 心臓病	557.21		
#3 慢性心不全	557.21		#3 慢性心不全	557.21		
#4 下血性心不全	557.21		#4 下血性心不全	557.21		
#5 三尖弁閉鎖、中等症	H10.81		#5 三尖弁閉鎖、中等症	H10.81		
#6 慢性肺動脈圧亢進	H10.81		#6 慢性肺動脈圧亢進	H10.81		
#7 肺動脈圧亢進、軽度	H10.81		#7 肺動脈圧亢進、軽度	H10.81		
#8 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		#8 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		
#9 肺動脈圧亢進、重度	H10.81		#9 肺動脈圧亢進、重度	H10.81		
#10 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		#10 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		
#11 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		#11 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		
#12 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		#12 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		
#13 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		#13 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		
#14 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		#14 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		
#15 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		#15 肺動脈圧亢進、中等症	H10.81		

荒川医院アンケートのお願い 2-1  
 荒川医院健康管理手帳の年刊サマリー、検査結果活用アンケートです。ご回答をお願いします。○をつけたり、書いたりしてください

あなたの年齢  
 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代

あなたの性別  
 男 女

あなたの主な病気、ふたつまで選んでください  
 循環器病(高血圧、狭心症、不整脈、弁膜症など)、呼吸器病(喘息、気管支炎など)、消化器病(肝臓、膵臓など)、脳神経病(脳梗塞など)、代謝病(糖尿病、高脂血症など)、内分泌病(甲状腺など)、腎臓病、その他

手帳をどこに持っていますか  
 家(自分の部屋、台所、仏壇、その他:場所を書いてください)  
 自動車、かばん(ハンドバッグ)

手帳を見ているか  
 見ていない  
 見ている(年に数回、毎月、毎日、その他:書いてください)

あなたの病気や薬が書いてありますが、役立っていますか  
 いない  
 いる  
 役立っている人にお聞きします  
 内容は理解できますか:できない、少しはできる、よくできる  
 内容は正しいですか:正しくない、大体よい、わからない

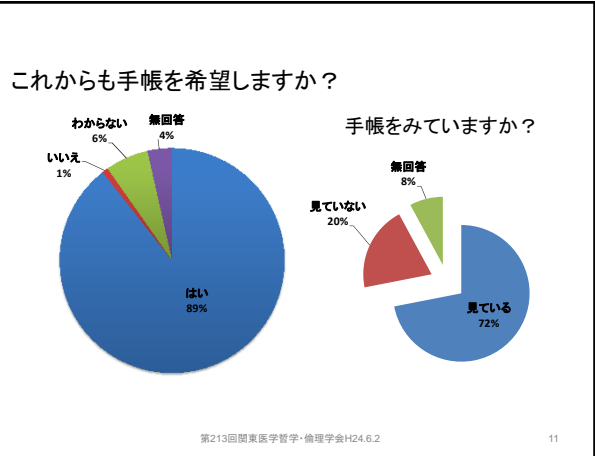
第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2

荒川医院アンケートのお願い 2-2  
 ここ数年間で、救急、休診日、夜間の場合などで救急病院へ行ったことがありますか  
 ない  
 ある  
 ある人にお聞きします  
 この手帳を見せたことがありますか  
 ない  
 ある  
 ある人にお聞きします。  
 この手帳があると医師が問題をすぐ把握できると思いますが医師はどうでしたか  
 医師側は丁寧にしてくれましたか:いいえ、はい、わからない  
 医師側は状態がよく分かり早く診療してくれましたか:いいえ、はい、わからない

これからも手帳を希望しますか:いいえ、はい、わからない  
 いいえ:(その理由をお書きください)  
 はい:(その理由をお書きください)  
 わからない:(その理由をお書きください)

荒川医院では、今後もこの手帳を継続するつもりです。  
 ご支援くださいますようお願いいたします。

第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2



## 成績

2012年6月現在で年刊サマリーの完了分は約300名、未完了分は約150名であった。  
 年刊サマリーには傷病名欄、処方欄、検体検査欄、生体検査欄、画像診断欄、新年の診療計画欄を設けた。各欄には傷病開始日、検査・処方年月日を記載した。薬剤の開始、変更、中止・終了などの経緯、理由を略記した。年刊サマリーは全経過を実用的に提示するために、A4判1ページに収めた。そのためには、相対的に不要事項を削除し、主要な新規事項を追加した。削除事項は様式の最後に続けて全て保存した。  
 アンケート結果は、健康管理手帳を見る:82名(72%)、病気把握に有用:93名(87%)、今後も希望:101名(89%)であった。

### 考 察

年刊サマリー作成の平均は、新規で30分、継続で20分であった。記録内容に不備・不適合がある場合には、原記録の確認に時間を要した。心電図、エコー図、対診医からの診療情報等の再確認作業はしばしば必要であった。診療内容の修正や補強の必要性にも遭遇し、診療の質向上、患者の信頼増強にも有用であった。時間を費やす大部分がこの再確認作業であり、作成効率を図る秘訣は、平生の十分な診療点検である。簡潔で実用的であるために、傷病名では解決・未解決の問題点を列挙しているために、診療報酬明細書の傷病名とは異なることがあった。年刊サマリーは患者に貸与し携帯する荒川医院健康管理手帳に貼付した。患者中心の医療、日常的診療情報提供ができた。対診の際には診療情報提供書に加えて年刊サマリーを添付した。院内医療関係者は年刊サマリーでの確認により、看護・調剤・窓口業務(明細書や薬剤情報提供書関連)を的確に実施できた。

第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2

13

### アンケートに見る健康管理手帳の価値

- ① 自主的自己管理価値  
いつ、どんな検査、どんな薬を飲んでいたかなど確認できる  
病気の内容、体の状態、血圧・検査データの推移がわかる  
自分なりに理解し、忘れないよう、記録しておいた方がよい  
自分の病歴等が正確に記録されているものがあるのは大切
- ② 伝達改善価値  
初めての診察では、本人が説明するよりも手帳を見せた方がよい  
薬剤の確認、重複防止が可能  
他の病院へ行った時に見せられる、説明が要らない  
救急時自分の口で言えない場合に見せられる  
他受診時説明しやすいし、理解してもらえる、情報の伝達が速い
- ③ 医療の信頼安心価値  
役に立つことがありそう  
何かあったらすぐ処置できると思うので、持っている则ち安心  
自分で管理できない

第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2

14

### 結 論

年刊サマリーは労力と時間のかかる作業ではあるが、かかりつけ医は自身の診療補強や修正により診療の質が向上し、対診医等に対する診療情報の伝達が改善できる。院内医療関係者は診療内容を的確に確認でき、分担業務を遂行できる。年刊サマリーは1年に1回更新し、診療情報を適切に区分した標準様式を定め、A4判1ページ以内が妥当と考えられる。年刊サマリーは、年初に全例作成するのではなく、おおよそ半年間かけて完成するのが実用的であると考えられる。健康管理手帳を介した日常的診療録開示により、患者は自身の診療内容を確認でき、かかりつけ医への信頼が増す。アンケート結果からは、患者が自主的に自己管理する姿勢、自己決定の強化が推測されたものの、かかりつけ医の自主的サービスに依存する面も大きいと推測される。

第213回関東医学哲学・倫理学会H24.6.2

15